



特別  
~13  
4148  
3



4148  
3

好む松月記目錄

卷三

一 殊勝しゆつとうのりのりとるとるりりおおすす

極楽ごくらくののりりくく

二 似にくく似にぬぬききくくくく

難波なんばのの梅うめのの志し賀が  
のの松まつがが枝えだ

三 女にととのの鐘かねよよああららんんれれ

池いけのの越こ海うみ乃の水みづ上うへ

アヤキ

56-4107



好色旅日記卷三

○大けりりる津へ 三里中前

のりけ百十段  
りりり八十段  
人りり三十七段

くわをるるにんああはく。日園てくやくまうる  
せり。例乃出女あまこむくぐりて様人とり  
そむる中ふあ履げけのけさぬまはみ人ひあふ  
ふんげんさぬてうさぬあんさぬあどつひさやして  
あのかこれ在あよこりざ入しわさるはいうめ  
まがどしとく山科あさりりまよ又をさるこま  
乃出家旅といひて一若酒うらのいあけあか  
といふ小あ上るりうさひまづまり。煩悩品を提の

⑫ 膳のぬけし心

飯後師

飯後師

仲人

⑧ 飯汁を女房の歌

死中

夕雲

とありん

とね

なふ。氣のつさこれ水とくくう寸者どぞくあらん  
乃息づつひあうく。親息親あううとすまで。世と  
あられとて定て。まきつじとくうとああらんを  
知らる時。つめく。初荒神。日奈より。川原。はま。な。河  
川。物。あ。う。と。の。あ。ふ。源。ゆ。り。く。そ。ま。こ。の。つ。あ  
他。城。と。つ。あ。お。見。く。う。う。う。う。あ。ま。ひ。や。ど。い。と。う。う  
ざ。れ。り。の。り。り。と。地。公。あ。う。れ。地。部。屋。の。う。ら。り。  
を。考。へ。迅。速。観。ど。う。の。う。う。胸。祇。む。り。乃。ま。ま。ら。ら  
う。う。紙。屑。と。賣。り。ふ。う。海。川。舟。宿。難。波。よ。似。る  
魚。く。も。あ。ら。ぬ。の。清。本。と。荷。バ。カ。ヤ。エ。お。ん  
は。れ。ど。あ。く。あ。と。う。う。あ。の。あ。さ。こ。め。あ。り。て

そとへど志が久乃一松を難波津の梅のわらうの  
うそて。新向あうとひとく。すうく。このを後の葉  
菅末央の柳。勝つとさうまうあやうたりと  
いへし。まきとくまとあうそのまねだ。香山乃  
嶽のありと。源が服ううまうう。これ。城。ゆ。れ  
あ。と。と。や。れ。り。う。う。う。う。の。あ。ま。あ。ん。う。さ  
と。あ。げ。て。あ。ん。と。う。あ。と。よ。あ。ひ。の。と。な。あ。つ  
と。い。め。く。た。の。う。三。井。寺。お。け。ひ。と。ま。づ。ら。所  
より。十二之乃。男の言とあおて。ナ。又。て。あ。あ。く  
と。向。よ。ま。て。ゆ。ひ。と。う。う。う。う。あ。こ。と。ま。う。ま。に  
ま。う。こ。と。三。井。寺。と。や。ま。す。う。の。天。智。天。皇



天武天皇<sup>ちとう</sup>持統天皇<sup>ぢうとう</sup>乃<sup>の</sup>この帝<sup>みかど</sup>は<sup>は</sup>誕生<sup>たうじん</sup>を<sup>を</sup>か  
 老<sup>らう</sup>思<sup>し</sup>と<sup>と</sup>ひら<sup>ひら</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>よ<sup>よ</sup>三<sup>さん</sup>井<sup>せい</sup>寺<sup>じ</sup>と  
 を<sup>を</sup>み<sup>み</sup>付<sup>つけ</sup>り<sup>り</sup>。又<sup>また</sup>芝<sup>しば</sup>城<sup>じやう</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>り<sup>り</sup>守<sup>まも</sup>り<sup>り</sup>同<sup>どう</sup>六<sup>りく</sup>傳<sup>でん</sup>教<sup>きやう</sup>  
 大師<sup>だいし</sup>の<sup>の</sup>衣<sup>い</sup>剃<sup>し</sup>子<sup>し</sup>智<sup>ち</sup>徳<sup>とく</sup>大師<sup>だいし</sup>之<sup>の</sup>口<sup>くち</sup>ケ<sup>け</sup>の<sup>の</sup>大<sup>だい</sup>寺<sup>じ</sup>れ<sup>れ</sup>を<sup>を</sup>  
 ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>つ<sup>つ</sup>。中<sup>ちゆう</sup>そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>く<sup>く</sup>が<sup>が</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>き<sup>き</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>へ<sup>へ</sup>後<sup>ご</sup>乃<sup>の</sup>  
 そ<sup>そ</sup>と<sup>と</sup>ふ<sup>ふ</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>さ<sup>さ</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>が<sup>が</sup>

山<sup>さん</sup>寺<sup>じ</sup>れ<sup>れ</sup>去<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>が<sup>が</sup>な<sup>な</sup>を<sup>を</sup>そ<sup>そ</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>後<sup>ご</sup>乃<sup>の</sup>  
 花<sup>はな</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>れ<sup>れ</sup>ど<sup>ど</sup>今<sup>いま</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>て  
 山<sup>さん</sup>ち<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>乃<sup>の</sup>夕<sup>ゆふ</sup>め<sup>め</sup>一<sup>いつ</sup>お<sup>お</sup>そ<sup>そ</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>ば<sup>ば</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>後<sup>ご</sup>乃<sup>の</sup>  
 殿<sup>でん</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>乃<sup>の</sup>夕<sup>ゆふ</sup>め<sup>め</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>と<sup>と</sup>是<sup>こゝ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
 なる<sup>なる</sup>地<sup>ぢ</sup>で<sup>で</sup>い<sup>い</sup>ご<sup>ご</sup>ざ<sup>ざ</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>







左の方乃社ヤチウチのありつゝあるウチカ他母のあいこえ  
 りよよおのりくくしとゆとそれくぞあやらあ  
 てござりすすとほせあてたなりうさふ  
 聖ホウの飯とほいさきし。たをことつあは  
 くり創りらるり  
 元よ八きん大井 ちんら大明神の三井  
 寺乃チシホ徳寺なり  
 ち向むかれお東之町おとけと右の田れ中ふ  
 なるる飯の所ゆよと井田而お平う深見  
 ゆる  
 なる井川村のちりり石山つ乃たわりけら



東大寺朗年僧都の国山へ南向乃書々  
 一は保氏の居りて式部様おごりつておる  
 ありあり。用徳一こごとく二五年より上ハ  
 公のらひおきて。流めよぬらさぶ。うごさう  
 大とせしけり。宗右後の連船よらあるもの  
 有怒る。しりふまもの短冊あんじり

季冬

浪はぬ海よりあれどけら流

うけしねづひのころるあり  
 吾奥がすきしく保氏のまじ式部が自巻  
 乃古般若經一巻。冥内ござりあり。あちり

なすめうしと色見集とらんを。保氏とうける  
 弘法大師乃弥勒の名号あり。むくさ  
 う信像の上よ。道唐は色紙之板よ。天竺の四門  
 と。秋秋二首。そのりり。むくさたあね  
 をとれうせり。あちりてらんうらな  
 ありと。あちりせぬうらみあねと  
 けさうの直親十二ひとあちりくとしてその  
 うらりしと。あちりさうさふあちり  
 後介(せつ)舟(ふね)今(いま)の(の)を(を)門(かど)に(に)田(た)が(が)る(る)を(を)  
 む(む)す(す)ま(ま)り(り)の(の)あ(あ)ち(ち)り(り)の(の)あ(あ)ち(ち)り(り)の(の)あ(あ)ち(ち)り(り)の(の)あ(あ)ち(ち)り(り)

せんりの雲棲せまふれ物とと物つこし。彼  
 際士も代書といふ俳僧師は法と見とれそ  
 うけども思ひせむおもふ所ありすと  
 老よ橋をぬうして意懐もまね敷世音不  
 ちういひは意あましくと新といふる  
 よむいふれ或アとともやうふ座介い  
 ういふれおもふぬんことくまありと  
 中といふらんまづいふ  
オカサカ  
 きたの橋と昔中あぐらありま  
 いせぬぬらん勢あぬのさ  
小つり 六六  
 大つり 九十九  
 月乃清れ池たよあり。じうは池よ月

ありさるるなよみぬ野海カ里西水ハよま  
 りもろれを記ういふ候屋敷ようん  
 らんを候うらひありまへれがうまき  
 さまのいや  
 たのやむせの舟ふのる路くれの辻まき  
 よゆけむみの海  
オカサカ  
 登白 庚午りまやまのりまはの意れ梅  
 ○草津より石段へ二里半十高所  
つりまけ 九十九  
 うらまう 四十五  
 人まき 七十五  
 海づりの村とてよむら村じうは村は  
 どの地へめよあぶらちたる者ふあ房

さあつけの道は、備後の方より女房乃、  
 をつとめ。毎夜ゆくのほほり。あるのあよ  
 りとあひいして、寝よる。女房を命乃  
 西あつ福む。さるひさぎうあせいとを  
 ちとさうごうくさるまや。ほおさうとて  
 十月あふ人のよとひらうせけり。それ  
 いら。そむ村とみづく。との世あそやう  
 ぬうて。だまけ男がある。このり  
 下ド、徳一夜のうちは、ゆの心とせ  
 里のよまをさる。おと。さう海とあ。ゆりこ  
 こが、あてあ。のこりみ山あ。むをひさ

梅のふ村の和申教らうとさ。はよりりゆ約よあたり

石<sup>い</sup>神<sup>かみ</sup>より水<sup>み</sup>はく 三<sup>さん</sup>里<sup>り</sup>の<sup>の</sup>六<sup>む</sup>所<sup>じよ</sup>  
のりうけ百文  
くさうけ百廿文  
人さく 九ニ又

女<sup>に</sup>性<sup>じやう</sup>ありと海<sup>うみ</sup>まがゆり

ふこた川<sup>がわ</sup>まらうく みるららの所<sup>ところ</sup>の入口<sup>いりぐち</sup>ふ

八<sup>はち</sup>まん<sup>まん</sup>の<sup>の</sup>文<sup>ぶん</sup>林<sup>りん</sup>の<sup>の</sup>田<sup>でん</sup>あり。は<sup>は</sup>老<sup>らう</sup>よ<sup>よ</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>こ<sup>こ</sup>う。

水<sup>みづ</sup>はく<sup>はく</sup>より<sup>より</sup>むら<sup>むら</sup>く 二<sup>に</sup>里<sup>り</sup>の<sup>の</sup>八<sup>はち</sup>所<sup>じよ</sup>  
のりうけ八十文  
くさうけ百廿文  
人さく 二十八文

いせさるれもはあり。たさつけの七<sup>しち</sup>分<sup>ぶん</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>る



○去山より坂をへり 二里半

のうんらびらうさうけちりてとんとてのむらへ  
 うはささくさくさくやが。虫は氷にあらは  
 とぬぬとさうり。こゝお女あるゆへはむらへ  
 懸けあり。けおの懸をさうへへ。ゆへにひで  
 蛭の骨虚男うして。一交をさう國の祓と  
 しまし。女房の死とるあり

いさ月乃清あらは。こゝもの首すこゝは  
 まいの村おあまほつらうてうら。うらとんを  
 さうり。ゆへに。たのうら。回村ちぬ。神の社と

のうら。むらへ  
 うら。むらへ  
 人さく。八八



坂の南より北へ八十里と云  
 んと云ふ所の北に山あり。これ北の  
 山也。其山あり。山あり。この山ありは  
 ついでにささみれらるる山あり。ささみれ  
 あり。やれつ圓へ移してあり。ささみれ  
 あり。

のりけ百丈又  
 ころけ百丈又

○園より南へ一里

はおき竹けつりて尖滝うら右のこころ  
 地を登りてさし中の一休をめんとして  
 よして同脈して山を越えしまつもくよめ  
 むは戸海を越へたりてささみれむいせみら

なり。湯の湯のありのこころけりつのかつりつとま  
 くのとこの同一山あり。右よてりつひのまみれ  
 湯けね。この山あり。おき竹とま  
 りぬ。伊世のつりともね。右よりとも  
 とある。さす。乃地。これ山とてさ  
 こといふ。園れ女あり。けりつとあり

○園より南へ一里

のりけ百丈又  
 ころけ百丈又

はの所より北の山あり。ささみれ  
 こころとしてあり。ささみれ  
 れむ。右の山あり。ささみれ

ありーろこころはよあり

○津よりくまづへ二里

のうけふす交  
りきり早交

ゆけし望よりよ清あり。さびし暮る  
里お飲ばらくらんかちりよふこそがれよ。  
業師乃清あり

○くまづより松坂へ二里

のうけ右月  
くまづ右月

雲津川のたよ伊賀のまのらみお市川山と  
及て橋とわらる。その向は橋うつあるれよ。  
このころとつあり。橋のひかりは敷の代

うり。まづ一難波乃夕霧かよみだんたが  
ちぬありけ。そのとすまねどんりあうが。  
まらうくうりて。ま昔久しやといふよ。中どら  
二つあるれ。まらうねと夕霧かき酒死し、心ん  
よ。やうこびあめす。後神ありあまらう。  
田と打鉄被父はありき酒とんて。よあめら  
ゆらねらふ。こつや何としこいふらうま  
て。候し敷の中へあげこいふらうま  
とへむあり敷。まらうの敷とそくれ  
とあひ。あめら神をびく。今のとく  
人とこあう守といふあて。うづいれぬ

信長がまゝよりついでとてついでに  
伊賀路へあゆむあり。去坂の所乃り入に  
火のさうするあり。九町ありは古橋あり。  
右のさうに紀州の城あり。右の  
の下。さうとまゝ里。義同ありはありは紀伊城  
あり。かつくはねむ風集まればどびり  
のさうよ奥上寺といふ禪寺あり。右乃  
くさ丸遊分を回村へりるなり。



